

# 清政

せい せい

# 60

創立45周年  
記念号

許勲世よ願て揃りたる人だと  
戦場の跡に松よ植恵たん





## 「不易流行」 就任のご挨拶

神道政治連盟京都府本部

新本部長 梶 道 嗣

先ずは四月十四日夜、四月十六日未明に発生いたしました熊本地震において尊い命を落とされました方々に対し、謹んで哀悼の意を表しますとともに、熊本県内に止まらず大分県を始め、この地震で被災された全全ての被災者に対し、衷心よりお見舞いを申し上げると共に、早期の復興に微力ながら尽力していく所存であります。

さて昨年度は、当会が創立して四十五周年という節目の年に当たりました。戦後の日本は、経済発展によって物質的には豊かになりましたが、精神的な価値よりも金銭的な価値が優先され、思い遣りの心を欠く個人主義的な傾向が強まり、多くの問題を抱えるようになりました。この状態に憂いを感じた先輩諸兄は「神道の精神を国政に日本の心を政策に」を旗印に、昭和四十四年に結成されたのが当会の沿革です。

歴代の本部長には神社庁の重鎮がご就任され、元号制定化、国旗国歌法、昭和の日制定、選択的夫婦別姓制度導入の阻止など数々の偉業を成し遂げて来られました。本年の活動方針・活動計画には神政連が掲げます数々の諸問題に対しての活動を掲げますが、とりわけ憲法改正運動を重点的に展開してまいりたく存じます。

日本国憲法第九十六条には改正手続きに

の立ち上げ、国政選挙や統一地方選挙と立ち会う事もしばしば、取り分け四十周年記念事業として行ったサイパンでの慰霊祭は、心に残るものであった。畏れ多い事ではあるが、陛下の英霊に対する大御心を思えば、私達が行ってきた英霊顕彰は足元にも及ばない事である。その大御心を拝し、神職としてしっかりとお勤めする事こそ大御心にかなう事であると思っている。

神社を取り巻く社会は年々変化をしてきており、今までの常識では解決できない事も多々起こるであろう。日本の精神文化として育ってきた神道に対し、三権が目を逸らせば戦後の神道指令どころでは無い。

ほぼ半世紀前神職達は、その厚き思いを持って政治連盟を発足させたのであり、我々がその基本である政治に関わる事は最大の使命であり、これからも共に協力できる体制を構築・堅持することこそ神政連の為すべき骨頂である。

執行部が刷新された今こそ、梶本部長を中心に「寛」と「猛」を交互に使い分け、さらなる発展を願い退任の挨拶とする。

ついでの定めがあります。先ずは国会の発議でありますが、両院総議員の三分の二以上の賛成が必要となつてきます。そのためには衆参両院選挙においての賛成議員の当選が不可欠となります。国会が発議すると国民投票にかけられます。ここで賛成が過半数に達し漸く改正となります。自主憲法制定に向けて、京都府議会神道議員連盟及び京都市会神道議員連盟、さらには各市町村の議員との連携を深め、日本会議・京都とともに協力し、研修会や勉強会を実施し世論を喚起する施策を講じたく存じます。

このような歴史ある当会本部長に若輩の私が就任することとなり、今でも困惑がありますし、大それたことは出来ないと思っています。しかしながら、そのような私をサポートしてくれる副本部長・幹事長・副幹事長・会計責任者・事務局長を始め、役員には素晴らしい方に名を連ねて頂き、感謝の念に堪えません。どこまで職務を全う出来るかわかりませんが、例えば本部長は交代することはない。しかし時宜に合った新たな挑戦は何時も怠ることはない『不易流行』の精神を以て、精鋭達とともに歩んで参る所存でありますので、宜しくご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 「寛猛相濟」 退任のご挨拶

神道政治連盟京都府本部

前本部長 林 秀 俊



子産曰く「政治には寛容と厳格の調和が必要である」と中国の古書「左氏伝」に記している。小生四期十二年間に亘り神道政治連盟京都府本部を預からせていただき、振り返ってみると小生の心は「寛猛相濟」とは程遠いものであったかもしれない。

弱冠四十八歳にして前田中恆清本部長の後を継がせていただき、思うがままに舵を取らせていただいた感がある。もう少し寛容の精神があれば一時休会を申し出る支部もなかった事であろう。厳格の精神が備わっていれば、一つひとつの事業ももっと意義ある充実したものになっていたかもしれない。しかし、小生を支えてくれた執行部役員、事務局の上手い軌道修正により難破する事もなく今日まで続けられた事に心より感謝する。

神政連の活動には、綺麗事だけでは済まない少々生臭い駆け引きも必要であると思っている。神職として肌が合わない事もあるかもしれないが、慣れてくると不思議と免疫ができてくるものである。「好きこそ物の上手なれ」という諺があるが、決して上手くはなかったものの、小生には居心地の良い十二年間であった。

京都府議会、京都市会における神道議連

の立ち上げ、国政選挙や統一地方選挙と立ち会う事もしばしば、取り分け四十周年記念事業として行ったサイパンでの慰霊祭は、心に残るものであった。畏れ多い事ではあるが、陛下の英霊に対する大御心を思えば、私達が行ってきた英霊顕彰は足元にも及ばない事である。その大御心を拝し、神職としてしっかりとお勤めする事こそ大御心にかなう事であると思っている。

神社を取り巻く社会は年々変化をしてきており、今までの常識では解決できない事も多々起こるであろう。日本の精神文化として育ってきた神道に対し、三権が目を逸らせば戦後の神道指令どころでは無い。

ほぼ半世紀前神職達は、その厚き思いを持って政治連盟を発足させたのであり、我々がその基本である政治に関わる事は最大の使命であり、これからも共に協力できる体制を構築・堅持することこそ神政連の為すべき骨頂である。

執行部が刷新された今こそ、梶本部長を中心に「寛」と「猛」を交互に使い分け、さらなる発展を願い退任の挨拶とする。

# 祝 創立四十五周年

## 宣言・綱領

わが日本国の現状は、内に外に誠に憂念禁じ難きものあり。よつてこの際、神道の精神を以て志を同じうするもの相ばかり、民族の道統を基調とする国政の基礎を固め、且つその姿勢を匡さんがため、ここに神道政治連盟を創立し、次の綱領五カ条の実現を期する。

- 一、神道の精神を以て、日本国国政の基礎を確立せんことを期す。
- 一、神意を奉じて経済繁栄、社会公共福祉の発展をはかり、安国の建設を期す。
- 一、日本国固有の文化伝統を護持し、海外文化との交流を盛んにし、雄渾なる日本文化の創造的發展につとめ、もつて健全なる国民教育の確立を期す。
- 一、世界列国との友好親善を深めると共に、時代の弊風を一洗し、自主独立の民族意識の昂揚を期す。
- 一、建国の精神を以て無秩序なる社会的混乱の克服を期す。

## 創立四十五周年記念事業

- 一、京都府戦歿英霊追悼慰霊祭の斎行  
及び時局講演会の開催  
平成二十七年十一月二十日
- 一、沖繩京都の塔慰霊祭の斎行及び国旗掲揚塔設置  
平成二十七年十二月十一日
- 一、靖國神社京都府出身関係祭神慰霊祭の斎行  
平成二十八年三月二十九日
- 一、清政記念号（六十号）の発行  
平成二十八年七月二十一日
- 一、記念大会の開催  
平成二十八年七月二十一日
- 一、記念表彰の実施

表彰状贈呈	前本部長	林 秀俊 殿
〃	前副本部長	花 房 義久 殿
〃	〃	吉 田 武雄 殿
感謝状贈呈	前副幹事長	小 島 廣政 殿
〃	前財務委員長	進 藤 秀保 殿

（敬称略）

## 祝 辞

京都府神社庁

庁長 田 中 恆 清



神道政治連盟京都府本部が結成四十五周年を迎えられるに当り一言お祝いとお祝いの挨拶を申し上げます。また併せて会報「清政」の発行が六十号の回数を重ねられ貴本部会員相互の共通認識と連携に大きく寄与されてこられたご功績に対し心より敬意を表し度存じます。小職も各位のご推挙を得て貴本部の幹事長や本部長として微力なりともその運営に関わらせて戴いた一人として、四十五年の足跡を想い返すとき、数々の出来事に遭遇したことは、ある意味会員間の結束と意気をたぎらせたことであります。

例えば、会員大会の毎年開催や会報の発行、時宜に即応するための臨時の会報であるFAX宅急便、沖繩県宜野湾市嘉数の丘にひっそりと佇む京都府沖繩戦戦者慰霊碑「京都の塔」での慰霊祭、そして京都の塔案内標識の国道・県道への設置等、数々の恒例や特別事業への取り組み等、今は貴本部独自の活動として会員は勿論のこと、府内神社関係者にも周知されており、夫々欠かさず執り行われております。「継続は力なり」とはよく言われることではあります。大きな打ち上げ花火より地道ではあるが確実に神政連としての使命と役割を果たすために今後共に会員が力を合せ心を一にして、更なる新しい活動にも取り組みを進めて欲しいと念願するものであります。

四期十二年間に亘って京都府本部を牽引し数々の功績を挙げてこられた前本部長・林秀俊宮司に、満腔の謝意を表し上げると共に本部長を支え続けてこられた役員・代議員そして事務局のご努力に深甚なる敬意とそのご労苦を称えたいと思っております。

結びに、京都府本部が次の五十年として百年に向けて更なる結束を深められ、皇室の尊厳護持を中心として我国の愈々の発展隆昌のためにご活躍あらんことを祈り上げ、拙い祝辞とさせていただきます。

## 神道政治連盟京都府本部 創立四十五周年を祝して

神道政治連盟

会長 打 田 文 博



貴本部が設立四十五周年の佳節を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。顧みますと、昭和四十五年十一月、貴本部は神政連の地方組織として設立され、爾来、皇室の尊厳護持を第一に掲げ、様々な活動を展開してこられました。貴本部の設立当時、我が国は高度経済成長期の只中にあり、心の豊かさよりも物質的な豊かさを重視する風潮にありました。また京都府にあっては、社会党の蜷川虎三知事による二十八年の長きに亘る革新府政の下にあり、その状況下で諸施策を推進されてきた先人の御苦労は如何に大変なものであったかと拝察致します。貴本部の長年の御尽力に対しまして、あらためて衷心より敬意を表する次第です。

戦後七十年を経ましたが、現憲法の影響により、我が国が長い歴史の中で育んできた文化や伝統に根差す価値観は軽視されつつあります。その結果、皇室の尊厳を軽んずるやうな気風が一部に拡がるとともに、行き過ぎた個人主義が蔓延し、健全な家族観や道徳意識を喪失させる動きも後を絶ちません。そのやうな中で、祖国や家族を守りたいたいという純粋な気持ちで散華された英霊の想ひを確りと受け継ぎ、先人が築いたうるはしい日本の歴史を後世に伝えてゆくとともに、国のかたちを示し国家の基本となる憲法の速やかな改正を実現すること、本連盟に課せられた使命であります。

幸ひにも、安倍政権の下で戦後体制からの脱却が漸次図られつつあります。我が国の置かれてある状況を克服し、斯界の長年の悲願である憲法改正を実現するには、並大抵のことではありません。貴本部を始めとする各都道府県本部のより一層の組織活動の充実と志を同じくする国会議員や都道府県議会議員と密接な連携が不可欠です。創立四十五周年に際しまして、貴本部があらためて結成当時の赤誠溢るる御熱意を以て、世界に誇る日本の文化、伝統を後世に正しく伝えるべく、今後益々発展してゆかれることを祈念致しまして、御挨拶とさせていただきます。

## 祝辞

京都府神社総代会

会長 荒巻 禎一



神道政治連盟京都府本部創立四十五周年、誠におめでとうござい  
ます。心よりご祝詞申し上げます。

本会が創立された昭和四十五年は、戦後の日本人が必死の復興努力  
の結果、昭和三十年の「最早戦後ではない」と経済白書で表現された  
り、その後の「神武景気」「石戸景気」といわれるような、急速な経  
済発展を遂げた頃でした。

この年開かれた大阪万博では、テーマに「人類の進歩と調和」とさ  
れたように、都市と地方の過密化・過疎化、公害が顕在化する程激変  
の連続でした。世界でも、東西冷戦の行き詰まりから、各国のパワー  
バランスの変化も予感される時代でした。

その後の内外の情勢の激変は言うまでもなく、先の本会四十周年以  
降の五年間だけ見ても、東日本大震災、津波、原子力発電所の炉心メ  
ルトダウンによる汚染、最近の九州熊本震災。世界的には、テロの  
続発拡大、中国の力による海洋進出、北朝鮮の核ミサイルの強行実験、  
英国のEUからの離脱など、まさに神道政治連盟創立時の宣言・綱領  
を目指す必要性は益々強まっています。

この時にあたり、周年行事として有志の協力、連帯を強め、行動を  
強められることは、誠に時宜に適し心強く期待しています。  
本会の一層の発展と皆様のご活躍をお祈りいたします。

## 祝辞

京都府議会神道議員連盟

会長 近藤 永太郎



神道政治連盟京都府本部におかれましては、この度創立四十五周年  
を迎えられ誠にありがとうございます。貴本部は、これまでの間、日  
本の文化・伝統を正しく伝える活動や京都府民の安寧祈願に精力的に  
取り組んできていただいております。心より敬意を表する次第です。

また、私も京都府議会神道議員連盟も発足から五年を迎え、この  
間、貴本部には多大なる御支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、ここ京都には、悠久の歴史に裏打ちされた日本らしい世界に  
誇れる文化・伝統が多く息づいております。一方で、全国的にも、日  
本人らしさや伝統的な価値観が薄れつつある現況がございます。こう  
した中、先般、明治以来始めて、中央省庁である文化庁が京都へ移転  
されることと決定されました。私どもも、この移転が京都のみならず  
我が国全体の日本文化を取り戻し、また更なる飛躍を図る礎となるよ  
う全力で支えてまいります。

また、私自身も、府議会議員として京都文化を未来に繋ぎ発展させ  
る活動に取り組み、併せて、長年幼稚園運営に携わる立場で心豊かな  
子供達を育み、さらに、地元西京区の松尾大社の氏子として大社の隆  
盛にも微力ながら取り組んできております。

今後とも、こうした文化・伝統を正しく伝える活動等にさらに邁進  
してまいりますので、貴本部の皆様方には、なお一層の御指導・  
御協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 創立四十五周年

おめでとうございませす

自由民主党京都府支部連合会

会長 西田 昌司



神道政治連盟京都府本部の創立四十五周年を心よりお慶び申し上げ  
ます。

戦後の日本では利己主義の蔓延により、個々別々な生き方の仕組み  
が作られてきました。しかし、本来社会というのは「相続」というこ  
とで成り立っているのであり、我々の存在というのも先祖様から  
脈々と受け継がれてきたものなのです。これは、神話の世界から連綿  
と続いてきた皇室と本質的に通じるものであり、その皇室の尊厳護持  
のため全力で活動されておられます神道政治連盟京都府本部の皆様  
に改めて敬意を表します。

また、もう一つの活動の中心であります教育の問題について、最も  
大切に教えられるべき精神は「故郷を愛する心」であります。それは、  
ご先祖様から受け継いできた故郷や家族などの永い繋がりを背負って  
いくという気持ちであり、自分を謙虚にさせてくれる精神でもありま  
す。謙虚さをもってお互いがみんなで助け合う社会こそ、日本人がい  
ちばん目指してきた社会なのです。このような本来の日本の社会・精  
神を取り戻すため、神道政治連盟京都府本部におかれましては更にこ  
活躍いただきますようご期待申し上げます。

結びにあたり、私も神道政治連盟国会議員懇話会 会長 安倍晋三総  
理を先頭に、皇室の尊厳の護持や教育の正常化など、日本国の更なる  
発展のため全力で働きぬくことを改めてお誓い申し上げます。今度と  
もご指導ご鞭撻のほどを宜しくお願い申し上げます。

## 祝辞

京都市会神道議員連盟

会長 寺田 博一



神道政治連盟京都府本部の皆様が創立四十五周年を迎えられました  
こと、心よりお祝い申し上げます。これもひとえに梶本部長様はじめ  
政治連盟の皆様、関係者の皆様や創立以来ご尽力いただきました先人  
たちのおかげであることに心より敬意を表する次第です。

神道政治連盟京都府本部の皆様におかれましては、日々御皇室の弥  
栄と私たち京都市民のくらしの安寧を御祈願いただき、まことにあり  
がとうございます。また平日頃より京都市会神道議員連盟のさまさま  
な活動にご支持、ご提言いただいておりますことに対し、この場をお  
借りして厚く御礼申し上げます。

さて、京都市会神道議員連盟も本年設立五周年を迎えます。全国で  
神道議員連盟設立の動きがはじまった際に政令市の中でいち早く設立  
しようという気運が高まり、当時自民党京都市会議員団の代表幹事で  
あった私が議員団の皆様と趣旨を説明させていただき、ご賛同を得て  
設立の運びとなりました。その際に私としましては、設立までのお世  
話をさせていただき、議員連盟の代表者にはふさわしい方にとの思い  
でございましたが、ご縁がありましたのか議員連盟の会長に就任させ  
ていただきました。今後も皆様のご理解のもとで与えられた任を務め  
たいと思っております。

結びに京都市会神道議員連盟と致しましては、「双京構想」の実現  
に向けて都市格向上の為の環境整備を提言しておりますが、過日には  
文化庁の京都移転も決定し文化首都京都としてますます京都が重い役  
割を担うことになってきます。そのためにも今後とも貴連盟と意見交  
換を行い、市民にとってよりよい京都市政が行われるようしっかりと  
働くことをお約束致し、お祝いの言葉とさせていただきます。



# 沖縄「京都の塔」 慰霊参拝団

平成 27 年  
12 月 10・11 日

## 併 創立四十五周年記念国旗掲揚塔設置事業

平成二十七年、神道政治連盟京都府本部は、創立四十五周年の佳節を迎えた。その記念事業として、十二月十日・十一日、沖縄「京都の塔」慰霊参拝団が林秀俊本部長以下二十三名により結成され、恒例となった慰霊祭の斎行とともに、周年記念事業として「京都の塔」敷地内に「国旗掲揚塔」を新設する運びとなった。

慰霊祭に先立ちその清祓式が斎行され、齋主の吉田副本部長が、大麻・切麻で掲揚塔を祓い清めた後、国旗の掲揚を行い、真新しい掲揚塔に国旗が翻翻とはためいた。

清祓に引き続き、「京都の塔」慰霊祭が斎行された。祭詞奏上の後、京都女子神職会の松井三紀・竹若佳代子両氏による「常永遠の舞」の奉納、参列者全員による「海ゆかば」の合唱、「鎮魂頌」の奉奏に合わせ黙祷を捧げ、「一旦緩急有れば、義勇公に奉じ」の精神のもと、沖縄で散華された英霊に慰霊と感謝の誠を捧げた。

と、ここまでの報告では例年と同じ…とお思いの方もおいででしょう。しかし、実は本事業十五回目にして初めて、慰霊祭斎行に最大の危機が訪れていました。

十日早朝、一行が京都を発ち、那覇空港に到着した頃、雨が降り始めました。やが



て街路樹のココヤシの木も大きくしなるほどの暴風雨となりました。過去に雨天での慰霊祭斎行はありましたが、今回は「暴風」のため、テントが設置できないという最悪の状況でした。そこで、翌日の天候回復に一縷の望みをかけ、慰霊祭を延期。急遽旅程を入れ替える事態になりました。初日は、波上宮参拝の後、翌日に予定していた女子学徒隊の「白梅の塔・梯梧の塔・ひむかいの塔」慰霊巡拝を実施。そして翌日、参加者と英霊の願いが通じたのか、天気も回復し、清祓式と慰霊祭を斎行することが出来たわけです。結果的に、旧陸軍病院「南風原壕群二十号跡」の見学など予定していた全ての行程を実施し、沖縄の地を後にしました。

これまで十四年間に亘り、一度も絶えることなく斎行されてきた「京都の塔」慰霊祭。最大の危機をも乗り越える、目に見えない「何か」を感じた節目の慰霊祭となりました。

最後に、大幅な行程変更にも関わらず、格別のご配慮を頂いた波上宮大山禰宣様、また職員の皆様、そして参加者の皆様に衷心より感謝申し上げます。

(副幹事長 神尾和俊)



白梅の塔参拝



梯梧の塔参拝



ひむかいの塔参拝